

社会調査の意義と目的

◆社会調査の意義と目的

- ① 福祉サービス評価
シングル・システム・デザインや実験計画法によって、福祉サービスの効果などを測定することを福祉サービス評価という。社会福祉調査の目的の一つである。
- ② 貧困調査
貧困調査はブース (Booth,C.) のロンドン市調査やラウントリ (Rowntree,B.S.) のヨーク市調査に代表される (→p.156基礎知識1)。貧困調査では、貧困の状態や原因を明らかにし、改善に向けた方策を検討する。社会福祉調査の目的の一つである。
- ③ 社会福祉調査の目的
社会福祉の政策形成、人間行動と社会環境の理解、福祉ニーズの把握、社会資源の把握、福祉サービスの質の評価、ソーシャルワークの知識基盤の形成および実践の科学的根拠を明らかにすること (EBP) を目的とする。
- ④ EBP (エビデンスベースド・プラクティス)
「科学的根拠に基づいた実践」のこと。対人援助の実践にあたって、科学的根拠を明らかにし、より有効な方法を考える方。
- ⑤ 科学的とは
結果についての証拠が明示されていることや、同じような方法で繰り返し同じ結果が得られる再現性があることが、「科学的」であるために必要である。
- ⑥ アクシオン・リサーチ
アクシオン・リサーチは、現実の社会問題に対して解決方法を企画・実施、記述、評価し、その過程を相互補足的、相互循環的に体系づけた実践的研究方法である。
- ⑦ アカウタビリティ (説明責任)
調査の実施者は、仮説設定の理由や分析手順および方法の採用理由、データの解釈理由などを説明する責任があることをいう。
- ⑧ 理論仮説と作業仮説
抽象的な理論仮説を実証的に検討するためには、概念を操作的に定義し、測定可能な変数にする必要がある。実証的検討が可能な具体的な記述による仮説を作業仮説という。
- ⑨ 仮説検証
先行研究などから仮説を導き出し、その仮説の正否の検討を目的とした調査設計を仮説検証型調査という。
- ⑩ 基礎調査
理論を発展させることを主な目的として実施する調査をいう。実践的な問題解決にすぐに役立つとは限らない。
- ⑪ 応用調査
応用調査は、解決の必要問題が存在しており、その問題解決のための情報を把握しようとするものである。
- ⑫ リサーチヤー=プラクティショナー・モデル
援助者自身が調査研究を実施するという援助者のあり方を、リサーチヤー=プラクティショナー・モデルという。

◆社会調査の対象

- ⑬ 現地調査
社会福祉調査は、現地調査によって事実を把握するタイプの情報収集である点に特徴がある。
- ⑭ 集団的特性
統計調査では、対象集団の集団的特性を問題とし、母集団はその対象集団である。
- ⑮ シングル・システム・デザイン (単一事例実験計画法)
N=1 (単一事例) を対象に、援助を受けている利用者の行動に変化があったか、その変化は援助によるものかどうかを明らかにし、援助の効果を明らかにしようとするもの。アセスメント、介入方針、ターゲット・プロブレム (解決すべき課題)、変化の測定方法の4要素を明確にしなければならぬ。
- ⑯ AB・ABABデザイン
Aはベースライン期、Bはインターベンション (介入) 期を表し、ベースライン期と介入期を比較することをABデザインという。また、これを繰り返すことをABABデザインという。
- ⑰ ABC・ABCDデザイン
援助の過程においては、援助の内容を途中で変更することがある。その場合、Aをベースライン期、最初の介入をB、2番目の介入をCとして、ABCデザインという。また、3番目の介入をDとすると、ABCDデザインという。
- ⑱ 古典的実験計画法 (事前事後コントロール・グループ・デザイン)
無作為割当によって実験群 (実験グループ) と統制群 (コントロール・グループ) を設定し、両グループについてサービス効果の測定に用いる従属変数 (→p.179⑳) を測定したのち、実験群にはサービスを提供し、統制群にはサービスの提供をせず、しばらく時期をおいて両グループについて再び従属変数を測定してその値の変化を比較する方法。
- ⑲ 実験群 (実験グループ)
図1 古典的実験計画法
図1は古典的実験計画法のフローチャートを示している。母集団から無作為抽出されたA群とB群が、それぞれ「支援の実施」を受けたり受けなかったりし、その後「測定」が行われ、最終的に「比較分析」が行われる。
- ⑳ 統制群 (コントロール・グループ)
実験計画法において、サービス利用などの介入を受けるグループのことを実験群 (実験グループ) という。
実験計画法において、サービス利用などの介入を受けないグループのことを統制群 (コントロール・グループ) という。